

## 第3回文京区アカデミー推進計画策定協議会

日時：平成22年2月18日

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター24階

区議会第1委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

(敬称略)

「出席委員」

会 長	山崎 一穎
委 員	久松 佳彰
委 員	伊藤 明子
委 員	上田 武司
委 員	新保 邦彦
委 員	長尾 栄一
委 員	和田 懋
委 員	内野 篤
委 員	武智 弘英
委 員	清水 智博
委 員	本松 邦廣
委 員	佐藤 成臣
委 員	榊田 慶輝
委 員	白鳥 宗一
委 員	中川 澄子
委 員	檜崎 華祥
委 員	白井 圭子
委 員	奥田 匠
委 員	佃 吉一
委 員	森岡 隆
委 員	市川 正明
委 員	大石 坦
委 員	大野 祐子
委 員	笠井 美香
委 員	熊田 美穂子
委 員	黒木 美芳
委 員	國分 眞史
委 員	柳澤 愈
委 員	山本 重子
委 員	渡辺 みゆき
委 員	徳田 隆

「幹事」

企画政策部企画課長	小野澤 勝美
アカデミー推進部アカデミー推進課長	毛利 俊光
アカデミー推進部観光・国際担当課長	小野 光幸
アカデミー推進部スポーツ振興課長	太田 治

## 開会

○毛利課長：それでは定刻を過ぎましたので、会長、開会をお願いいたします。

○山崎会長：こんばんは。お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。「第3回アカデミー推進計画」の策定委員会を開催したいと思いますのですが、出欠状況を事務局のほうからお願いします。

○毛利課長：それでは、本日の出欠状況をご説明いたします。ご連絡いただいているのは水越委員、青木委員、野口委員、村松委員、田辺委員、高橋委員、の6名の方から事前に欠席のご連絡いただいております。まだ委員の方で3名ほどお見えになってない方もいらっしゃいますけれども、そのほか幹事は全員出席でございます。

続きまして資料の確認をしたいと思います。本日席上に2点、資料を配付いたしました。1つは「第2回協議会の会議録(案)」。もう1つは「文の京観光ガイド(おさんぼくん)」この2つを席上配布しております。それから差替え用の資料として「資料第22号」を席上配布しております。以上であります。

○山崎会長：ありがとうございます。それでは皆さん方のお手元にあります会議録ですが、お持ち帰りいただきまして、ご発言のところをよく目を通していただきまして、もし訂正がございましたら25日、木曜日になりますけれども、お寄せいただければありがたいと思います。皆さん方の訂正を集めまして議事録を整理した上で公開したいと思いますので、なにとぞよろしく、できるだけ文書で回答をお願いいたしたいと思っております。もう1つ、今日の会議の進め方でございますが、最初に事務当局のほうから、前回少し至らなかったところで、推進計画の基本理念とか目標とか方針とかのイメージ案について、若干の補足ということがございます。その補足をいただいた上で、もしご質問があればご質問を受けて、前回お2人の方から質問が出ておりますので、それに対してのお答えをいただいて、およそこの時間を30分ぐらいとしていただき、後の1時間ちょっとを前回、今回の意見を踏まえまして質疑・応答といいますか、ディスカッションをしていきたいというふうに思います。それが8時10分ぐらいになるだろうと思います。そうしましたら、いったんそこで会議を切りまして、実は今日は分科会ごとになっておりますので、その後半10分~15分ぐらいを分科会でお集まりいただいて、顔合わせと分科会のご意見の交換というところで会を終わりたいと、そんなふうに考えておりますので、1つよろしくお願いしたいと思います。それでは毛利課長のほうからご説明をいただきます。

○毛利課長：それでは本日の議事に入ります前に、前回の資料で説明が不足した点がありましたので補いたいと思います。前回の資料で資料第20号というのがございます。そちらの基本理念・目標・方針のイメージ案ということでお渡ししているあるものなのですが、この中身は本協議会では今後の指針ということで、アカデミーの推進計画の5分野別ではなく横断的につらぬく基本理念とか基本目標、基本方針を明確にしていきたいと考えています。前回の第2回の協議会で説明いたしました平成4年に策定した「文京区生涯学習基本構想」および平成17年に策定いたしました「文京区生涯学習推進計画」ならびに文京区アカデミー構想に基づき区民が「いつでも・どこでも・だれでも」学べる文京区全域を生涯学習のキャンパスに、を実現するための具体的な施策を推進してまいりました。今回計画を策定するにあたりまして、推進してきた施策の成果を発展させ、その視点、考え方を継承し、これまでの成果を生かしつつ、社会状況の変化や社会的課題等に応じた新しい基本理念・基本目標・基本方針の策定を

進めていきたいと考えております。本日皆様に日ごろの区内での生涯学習、スポーツ、文化芸術、観光・国際についてさまざまな活動を通じて感じていただくことを伺いまして分類・集約していきたいと思っております。そのことによって共通の認識を持ちまして、次のステップとなる分野別分科会に進んでまいりたいと考えております。最終的には委員の皆様のご考えやご意見を集約しまして新たなる基本構想と整合性を図りながら、お手元の資料 20 号のイメージ（案）のようにまとめてまいりたいと考えております。そうしまして、次回の第 4 回の協議会で中間的な集約や分類をし、4 月より入る分野別分科会に入ってまいりたいと考えております。これらの点を念頭に置きまして皆様のご意見をいただきたいと思っております。事務局からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

**○山崎会長：**今の事務局のご説明に関して、ご質問がある方はございましょうか。特別なければ少し先へ進めてまいりたいと思います。それでは先回、お 2 人の方から質問が出ておりますね。その質問に関してちょっとお答えをいただければと思います。

**○毛利課長：**それでは、まず 1 点目の質問ですけれども、スポーツ分科会の大石委員からいただきました質問につきまして、太田スポーツ振興課長より回答をお願いしたいと思います。

**○太田課長：**スポーツ振興課長の太田でございます。前回大石委員から 3 点ほどご質問いただきましたので、それに対してお答えしたいと思います。まず 1 点目は特別支援学級の卒業生の受け入れ先というご質問でしたけれども、特別支援学級の卒業生を対象とした事業といたしまして、日曜青年講座という事業を行っております。文字どおり日曜日に行っている事業ですけれども、月に 1 回、日曜日にレクリエーションを主体として活動を行い、社会生活への適応性の向上、それから余暇の充実を図ると共に仲間づくりの機会を提供すると、このような目的で実施しております。具体的には陶芸教室であるとか、スポーツでいうとボーリング大会、あとはクリスマス会、もちつき大会、宿泊も行っております。それから舞台発表、それからほかの区の方々との合同レクリエーション、このような事業を行っております。このほかに障害児を対象にしたスポーツ事業といたしましては、障害児の水泳教室も行っております。またスポーツセンターとか総合体育館におきましては、障害を持たれた方々も日常的に今利用されているということでございます。

2 点目のご質問です。スポーツ施設の利用者数が平成 18 年度落ちているというご指摘、この理由でございすけれども、2 点ほど考えられるのですけれども、まず 1 点目は施設がたまたま平成 18 年度に工事がございまして、それによる閉鎖期間があったということでございます。具体的には、スポーツセンターが平成 18 年度にアリーナの部分で壁面改修工事がございまして、競技場がしばらく使えなかった。また竹早テニスコートにつきましては、人工芝の張り替えの工事がありまして、施設の閉鎖期間があったということです。2 点目の理由は、例年開催している大会が何らかの事情でその年だけ開催されなかったというようなことがございまして、これによって大きく利用者が変動されるということでございます。

3 点目のご質問ですけれども、新型インフルエンザの事業への影響ということですが、区ではインフルエンザ対策本部を設置いたしまして区全体として対応を検討してまいりました。昨年の 11 月に対策本部の決定を受けまして 11 月中に実施する、区が主催するスポーツ関係の事業について対応を行いました。その結果、基本的には子どものみが参加する事業を対象として 3 つの事業を中止いたしました。また子どもが参加すると見込まれる事業につきましては注意喚起を行ってまいりました。以上で

ございます。

**○毛利課長：**続きまして、私アカデミー推進課長から、観光分科会の市川委員からご質問いただきました2点についてお答えいたします。まず1点目は、文京区の各施設を運営する監理レベルを教えてくださいというご質問でした。前回の資料の中で、文京区の特性に掲載した施設は、ちょっと難しい話になりますが、地方自治法で定める住民の福祉を増進する目的を持って、その利用を供する施設と定義された、いわゆるこれは公の施設になります。そういった施設を設置する際につきましては、各施設の設置条例というのを制定していきまして、その中で設置目的とか開館時間とか利用料金等を定めております。この条例をもちまして設置および監理に関する事項となっております。従いまして、条例には数値的なものは載せていませんので、監理レベルとしての数値目標というものは特に定めておりません。参考までですけれども、前回の資料のときの例えば文京公会堂の利用状況を見てみますと、平成20年度ですと、年間利用実績としまして例えばシビックホール（大ホール）が83.5パーセント、小ホールにつきましては94.5パーセント、スカイホールにつきましては78.5パーセントといった利用実績になっております。区としましては、各施設ともこの利用実績の向上に努めていきたいと考えております。

それから2点目の観光ビジョンに関するご質問です。観光ビジョンの実施計画はあるのか、という質問ですけれども、観光ビジョンにつきましては長期的な視点に立ちまして文京区の観光をより魅力的なものにするということで、今後10年の観光振興の取り組みを示したものであります。平成21年8月に策定し、このビジョンの実施計画というものは定めていない状況であります。まさに今回のアカデミー推進計画策定協議会およびこの分科会の中で、ビジョンを踏まえた形で事業展開を議論しまとめていきたいと考えております。質問については以上です。

**○山崎会長：**質問された委員の方、今のお答えでよろしゅうございますか。

**○委員：**どうもありがとうございました。

## 議事

**○山崎会長：**それでは、本日は基本理念、基本目標、基本方針を検討するにあたっての意見交換をしていくわけですが、お手元の資料の、先ほどは20号についてのご説明があったわけですが、22号、23号について若干の説明をまずしていただいて、それから意見の交換に入りたいと思います。

**○毛利課長：**事前に送付いたしました資料の中で、資料第22号ですけれども、こちらは基本理念等の検討するための参考となるキーワードということで前回お示ししております。こちらの基本となる基本構想の骨子等のキーワード以下、幾つかキーワードが入っているわけですが、5ページ、若干追加したところもあります。教育基本法とか社会教育基本法、こういうところのキーワードも若干追加しました。それが22号です。

続きまして資料第23号、こちらにも基本理念等の前回の協議会での各委員会から出た意見を抜粋しまして、これを分野別に分けまして、項目とキーワードごとに分類いたしました。右側が各委員の意見になっております。それをまとめたものです。参考にご覧になっていただければと思います。

続きまして第24号の資料、こちらは同じく基本理念等の前回の協議会の、それぞれの各委員の意見内容をテープ起こししまして、そちらを分野別に分類しまして、各委員の発言の中から今後の基本理念、

基本目標、基本方針を検討するに際して参考になりそうな個所をゴシックと下線で強調したものです。事務局のほうでこのようなものにしました。こういった資料を事前に送付しましたので、このへんを参考にお願いいたします。

**○山崎会長：**ありがとうございました。お手元の資料が、つまり今のご説明によりますと、22号のほうは事務局のほうでの1つの骨子、それに対して23号はそれを踏まえてこの場で皆さん方からいろいろ出た意見を分野別にまとめてくださったものであると。さらに24号のほうは皆さん方のご意見の中で問題になりそうな、あるいは検討の課題、あるいはテーマ、そういうものについてゴシックでアンダーラインを引いてあると、そういう資料になっておるといことです。ですから、そのへんのところを踏まえれば当然1つの議論展開になっていけるだろうと思います。最初は無理して文章にしてしゃべろうとしなくても結構だろうと思うのです。キーワード的なところでもいいですから、少しこの辺が欠けているんじゃないとか、この辺を検討してみたらどうか、というようなご意見を出していただいた上で意見交換ができればというふうに思っております。やはり全体として事務局のほうでも、私自身は眺めてみて、本来どうしてもこういう基本理念なんていうようなことをやろうとすると非常に硬くなるんですね。そういうふうになっていないところがいいだろうと。だからこの流れの上に立ってまとめられれば一番いいのかなという思いがしています。どうしても理念というんで、何かがちりまとめないと動きが取れないような気持ちを持たれてしまうと、いかにも作った文章になって本当の区民の目指すアカデミー計画にはなっていないのだろうと。ですから自由に言葉にならなくても、思いでも、そのイメージとしてでも、発言していただければと思います。どなたか口火を切っていただけませんか。はい、どうぞ、柳澤委員。

**○柳澤委員：**難しいですね、理念とか目標とか、こういう哲学的な言葉で、私は慣れませんのでね、これを見ただけであまりいい意見は言えないのですが。ただ、非常に月並みな言い方ですけども、区民のための、区民による、区民のある意味推進計画という中で私が一番重きを置きたいのが「区民による」というところです。どうやってそのへんを区民がやると。これから団塊の世代が2～3年しますと男性が65歳になりますから、65歳～75歳というのは割合まだ活気がありまして、仕事をさせていくと、そのへんを資源としてどう利用していくか。40代前後の人というのは会社が忙しくて、またいろんな経済的理由で文京区に住んでない人が多いと思うんです。若い中学校、小学校も1つ大事ですけど。私が気付いたのは65～75歳の間の区民を、どうやる気を出させて使っていくかということが1つのポイントじゃないかなと。あまり理念から外れるような話ですけども、そういうことを思いました。以上でございます。

**○山崎会長：**ありがとうございます。それは大切な理念だと思うんですね。つまり区民による、区民のための、区民のアカデミーということですから、そのところに、それが例えば「まるとキャンパス」というようなところへと結び付いていくはずですからいいだろうと思うんです、今のお考え方で。だからそれをどんなふうにもう少し具体化していくかということだろうと思うんですね。既にもういろんな分野でご活躍いただいているわけですから、そういう経験を基にして、もう少しこんなふうにしたら、ただ今までの発言を読んでも、いろんな資格を取ったりボランティアをやったり、ところがそれを利用する、あるいは活かす場が、どうも狭いという、その気持ちが、一生懸命学んでいるのだけれどもどうもそれを活かす場がどうも狭い、あるいは無いというような焦燥感みたいなものがご発言の中から

若干感じ取れるのですね。だからそのところなかなか難しいので、施設という問題も当然出てきますから、さっきシビックホールの稼働率の問題が出ましたように、かなり稼働率がいいようですから、各々が学習するときうまく調整できなくてバッティングしてしまうというような、そういうことがあるのだらうと思う。はい、どうぞ。

**○中川委員：**アカデミー構想といいますと、私には不勉強なせいとか、とても抽象的で分かりにくいのです。それで、これは私が絵かきで美術係のものなのですが、これだけ文京区にすばらしい遺蹟とか公園、いろいろまちの中でも坂が非常に多いまちで、絵になる場所がたくさんございますが、そういった絵になるところを、これは観光のPRにもなるかと思うのですが、先日、「文の京の文学賞」にご招待いただきまして、そのとき思ったのは、これは全国的にも文京区内の絵になるような場所を、コンクールみたいな形でもしたらPRにもなるし、ということを考えましたけれども。ちょっと的外れかもしれませんが。

**○山崎会長：**ありがとうございます。実は今ご意見いただいたのは、皆さん方の机の上にこういうパンフレットが置いてございます。私なんかこれを眺めていまして、やっぱり大変な資源を持っているわけですね。今ご発言いただいたのは、この建物だけじゃなくて風景なんだと。その風景というのは、それこそ世界遺産的にいえば財産ですから、特に古い明治の面影を残している、例えば根津界限なんていうのは森鷗外の旧宅のあった藪下通りの散歩道で、かなりの人たちが通っております。そういうところは観光だけじゃなくて恐らくいろんなことが考え得るんだらうなど。意外に実はこれだけあるっていう、知られていないんです。これも私の責任の一端ですが、跡見学園の中高生に、とにかく夏休み中、ミュージアムネットワークのバスが動いていますから、「それに乗って、とにかく行ってこい」と言ってるんですけど、やっぱりなかなか浸透してません。今のようなご意見も1つの貴重なご意見だらうと。恐らく文化・芸術という面と観光という面とリンクしてくるだらうし。そういう意味で、確かにアカデミーという言葉にとらわれてしまうと動きが取れなくなりますから、とにかく生涯学び通すんだという、その学びの場なんだという、その学びが従来は机の上の学びを主にして狭く考えていたものが、そうじゃなくて、広げて、とにかく精神も肉体もという形で、そして観光というところまで広げたときに、今の風景も出て来るだらう、そんなふうにとらえていただければアカデミーというようなものを、もう少し広くとらえていただければ、今のご意見で十分生かすことができるだらうと思いますので、あまりアカデミーというところにとらわれないでご発言いただければありがたい。

**○毛利課長：**申し訳ないのですが、発言するときに、議事録を作っていますのでお名前を言っていただければ助かるのです。よろしく願いいたします。

**○和田委員：**文高連の和田です。2つほどあるんですが、1つは文京区というのは犯罪の少ないまちと言われてますね。すると安全で安心なところで学ぶことができる、というのが1つの大きなポイントになってくるんじゃないだらうかと。どうしてそういうことを言うかという、今、小学校、幼稚園とかで校庭とか園庭とか、あるいは体育館とかそういうところを開放しているところがあるんですね。そういうところを利用させていただいているわけです。それはスポーツであったり芸能大会であったり、絵とか書道関係の展示だったりしているわけです。そういうところもやはり安全・安心ということが、まずポイントになるわけです。その安全を考えるとということで開放をちゅうちょしているところもあるん



です。そういうところを我々がお願いに行ってもなかなか使わせていただけない。区のいろんな施設というのは、どうしても曜日とかによって取れないってことがあるのです。例えば高齢者クラブが 90 クラブ、文京区はあったんです。それが最近では 70 を切ってしまっているんです。最大の原因は何かと、1つは自分たちが遊ぶとか、いろんなことを学ぶ拠点が無い。以前は寿会館というのがあったのですが、それが交流館とか介護予防の拠点に変わってしまったという事で半分ほどに減ってしまったのです。そのために拠点がなくなってつぶれたところがあるのです。そういうことでは、やはり学校の校庭なり、体育館なりを開放していただければ一緒になって遊べる。1つの例として昭和小学校とか駕籠町小学校、本郷小学校は貸していただいているのです。そうすると例えば民生委員のOBとか、民生委員の人たちは本郷小学校の音楽室でコーラスの練習をしているわけです。あるいは昭和小学校を借りていたりしているのです。それから高齢者の場合には昭和小学校と一緒に芸能大会を、土曜・日曜日になっているとか、あるいは輪投げ大会とか交通安全教室とか、警察と一緒にやってる、そういうことがあるわけです。その意味でやはり安全・安心ということが、文京区というのはそういうのが特色なんだよ、ということが全面的にもっと打ち出してもらえたらいいのかなというのがあります。

それからもう1つは、いつも考えているのですが、まちを歩いているうちに、旧町名が文京区はほとんど消滅してしまっている。だからその旧町名をどう生かす、これも無形の文化財だと思うのです。例えば文学作にしてもいろんなところが出て来るわけですね。まちを歩いている人たちの話を聞くと、文学書を持って、ここはどこか、本郷とかいろいろ歩いているのです。それは旧町名を探して歩いているわけです。ところが、それがほとんど消滅しちゃっているというのがあるわけです。それをどう考えるかというのがありますね。例えば町会の名前は3分の2ほど残っているのです。駒込地区とか本富士地区あたりですと残っているのです。新宿へ行くとだいぶ残っているのです。江戸川という川がありますね。それを今の若い人たちは全然知らないです。あれも神田川と思っているわけです。ところが関口台町が神田上水で、関口台のあそこから堰があつて水を流して飯田橋までが江戸川ということで、江戸川橋があり江戸川がありという、と我々はそこで遊んだりとか、飯田橋から今度は神田川になるわけですが、そういう旧町名というのはほとんど消えてしまっている。やっぱりアカデミー構想ということであれば、そういう文京区のいろんな歴史のある地名をどう残していくかということも、安心・安全も含めて考えていただけたらと思うのですが、いかがですか。

**○山崎会長：**今、貴重なご提言として承り、だいぶ難しい問題ですね。最初の安心・安全の、特に私なんか学校にいるものですから、片一方で開放しろというのはよく分かるのですね。ところが片一方開放して、これは大学の場合なのですけれども、グラウンドで事故が起きて訴訟になっているのですね。そうすると実は管理責任ということで、みんな躊躇してしまうのですよ。ですからこの問題はやっぱり開放ということは重要なことなのだけれども、そういう問題もあるので、今問題として受け止めさせていただきます。それから旧町名というのは確かに、私なんか自分が文学の専攻なものですからよく分かるのです。ただ、それが行政の新しい地名と、どんなふうに齟齬しないでうまく溶け込めるのかということも、また考えなきゃならないし。といて、また特に、文京区にはないのですけれども、かつての色まちであったところの町名というのはできるだけ避けたいというものも、当然住んでいる人たちにはおありでしょうし、だからそういう問題が必ずしも文化だけの論理でいかない部分があるのだらうと思いますが、今は貴重な提言として受け止めさせていただきます。では、長尾委員お願いします。

**○長尾委員：**私は前回にも申し上げたのですけれども、アカデミーで実施されますいろいろな講座にお

世話になりまして、たくさんの利益を得ているわけですがけれども。そうした講座、コンサート、非常にいいものがございます。そういうものを何で知るかといいますと、区報が一番多いのですけれども、区報はイベントがあるということは知らされるんですね。「ああ、そんなものがあるのか」という程度で皆さんが見ているのかもしれませんが、実際に出てみますと大変にいいものがたくさんあって。どんなによかったかということが出ることはまずないのです。だから広報課の仕事が増えたり、あるいは区報の紙数が増えては困るのかもしれませんが、そうした区民がアカデミーで行ったイベントで感想などを述べる、そういうチャンスといいましょうか、そういうものがありますと「ああ、そんなにいいものなのだろうか」ということが分かるだろうと思います。

それから先ほどの地名、あるいは風景なんか、今、NHKで「プラタモリ」というのをやっていますけれども。第1回目でしたか、文京区のちょうど江戸川に沿ったところの坂をずっと歩いていましたけれども。ああいうものを見ますと「ああ、なるほどなあ」ということがよく分かるんです。そういう意味で実際に行われたことの感想や印象といったようなものをどこかに載せて区民に知らせることができればいいんじゃないか。これが1つです。それから私も文高連の一員でもあるんですけれども、文高連の中のそれぞれのクラブでもって何かをやろうとするときに場所を取ることが大変なんです。これは理念とはちょっと離れるのかもしれませんが、理念を実際に実現するためにはそうした場所の確保といいましょうか、あるいは場所のやりくりというのでしょうか、そういうことをもう少し自由にできればアカデミーの常時の振興といいましょうか。そういうものがうまくいくんじゃないかということを始終感じている次第です。以上。

**○山崎会長：**はい、ありがとうございます。最初のほうはいろんなものの評価といいますか、恐らく評価をしていく、その発表の場といいますか、それは工夫次第でできるだろうと思いますので、そちらのほうは今、1つの提言として受け止めておいていいだろうと思います。もう1つの施設のほうは、やっぱり大きな問題として各団体がみんな抱えてる、恐らく学習が活発になればなるほど、その問題は出て来るとおもうので、今後どんなふうを実現していくときの実際の活動状況を、より質の高い、あるいは活発にしていくための方策というようなものを、もう少し連絡調整機関のところでもう調整ができればというふうに思います。今は問題点として受け止めさせてください。次に奥田委員、どうぞ。

**○奥田委員：**観光分科会の奥田でございます。今後、議論を進めていく上でちょっと分からない点がございましたので、1つだけ教えていただきたいのですが、文京区アカデミー推進計画ということで、多分、もともとは生涯学習とかそういうところから出発して大きな計画になっていったものじゃないかなと思うのですが、今回裾野を広げて観光であるとかその他の分野も入ってきたのかと、この前の説明でお聞きしましたが、基本理念そのもののお話ですが「文京区内全域をまるごとキャンパス」という基本理念は、今回は裾野が広がったことを踏まえて、もう1回再構築するご予定なのか、それとも右の吹き出しのところに「今までの視点・考え方を継承し、これまでの成果を発展させる」というふうに書いてあるので、文京区全域まるごとキャンパスにというものは、基本理念として動かさないおつもりなのか、そこらへんをちょっと教えていただきたいのですが。

**○毛利課長：**こちらの基本理念で書きました「文京区全域まるごとキャンパス」は、あくまで例示的なものなのです。例示ではあります、今まで皆さんの意見を聞きますと、このキャッチフレーズの1つの重要性はあるというお話も出ていますし、今後議論していく中で、これが生きるかもしれないし、こ

れが修正されていくかも分からない。そういったことがありますので変更は可能なものであります。コンプリートされたものではありません。

**○奥田委員：**全く白地で理念から考え直すっていうことでよろしいですね。

**○毛利課長：**ある程度、今まで勉強しました文京区の基本構想なり生涯学習基本構想、アカデミー構想、勉強してきたわけなのですが。それを踏まえた評価もあると思いますので、そのへんも踏まえた上で次の展開をお願いしたいと思っています。

**○山崎会長：**はい、佐藤委員。

**○佐藤委員：**生涯学習分科会の佐藤でございます。今のでようやく分かりました。そうすると、基本理念のまるごとキャンパスにというわりには施設を貸してくれないところであるとか、貸してくれない施設が有り過ぎるということからすれば、これは額面倒れだと。それから「いつでも、どこでも、だれでも」と言いながら障害者に対しての生涯学習ができてなかったり、いつでもと言って24時間営業の施設があるわけではないということですので、それも額面倒れだということになれば、やっぱりこれは、もう少し現実可能な方向に変えていくしかないか、もしくは目標なり方針をできるような方向に立てて行き直しという形になると思います。例えば今申し上げたんですけれども、いつでもと言っておきながら、24時間勉強できないんだとすれば、その代案としてオンラインの学習機能を提示してみるとかVTR学習を例示してみるとか。例えば誰でもと言って視覚障害の方に対しての生涯学習ができないんですたら点字翻訳をしたものを出してみるとかということ、例えば目標として書くのであれば、「いつでも、どこでも、だれでも」という形になりますが、もしそれが難しいというのであれば、どのような方にもでもチャンス差し上げるというような形に項目を落とすとか、そういうような方向に書き直しが必要ではないかと思います。書かれているキーワードはもう1回読み込みますので、また後ほど発言させてください。ここはここで終わります。

**○山崎会長：**だいぶ厳しい意見が出ましたけれども、どうですか、事務局のほう。事務局のほうは、一応お聞きしておくということのようですから。ただ会長としてはそういうわけにもいかないのです、弱めるのです、非常に。要するに今まで文京区が進めてきた理念というようなものは、言ってみれば健康で文化的なという憲法の、その下につながっていく、その後ろに書かれている教育基本法であるとか、そういうものを踏まえながら、1つの「まるごとキャンパス」という形を打ち出してきたのだろうと。そういう理想とする理念と現実の間の齟齬、これは何も文京区だけじゃなくて、どこの区でも悩んでいるのだろうと思うのです。ただそれをできるだけどう近づけるかということなのです。今、佐藤委員は現実に合わせて以外ないじゃないか、という意見。それは1つの現実論としてあると思うんです。しかし、もう1つは、やっぱり理想は理想として、近づけるのだという方向で、もう1つ出して、そして、やっぱり行政に我々の熱意はこういうふうにあるから、だから施設をこう拡充しなさいと。それはやっぱり柳澤委員の出た市民が作る、市民のためのアカデミーになってくるんだろうと思うから、しばらくはあきらめないで、少し議論を活性化する以外ないだろうと思いますので、1つ自由に、だから厳しく評価を踏まえた上で言うというということになることです。

**○黒木委員：**生涯学習分科会の黒木です。今理念の話をしているのであれば、オペレーションレベルの具体的にあっち難しい、こっち難しいをやったらきりが無いと思うんです。そこで、これまで使ってきた言葉を生かすことはできると思うんです。中身を膨らませれば良いと思います。私が好きなのは「区内まるごとキャンパス」で良いと思うんです。ただカタカナでキャンパスとなっていますから、何かに替えられたらいいなと思います。同時にキャンパスを使うのであれば、学習キャンパスという学習という言葉にくっつけちゃうか何かと思うんです。ですから理念としては、「いつでも・だれでも」というのを生かしたいと思います。絶対これは生かしたいと思います。

それで2つの点を申し上げたいんですけども、気持ちとして思っているのは区内まるごと、第一ステージはそれで良いと思います。もう既にやってきていますし、まだ進むと思います。将来を考えたなら首都圏キャンパスぐらいの勢いを持つのが理念じゃないかと思うんです。そんな感じでおります。

**○長尾委員：**理念という言葉自体は、ものの考え方ですから、あまりいじくなくてもいいのではないかと思うのです。むしろ、この理念をどう、先ほどから具体的なものばかりを申し上げますけれども。どう生かすか、つまり、どう心を込めて行くかというところに今後の問題はあるんじゃないかと思っています。先ほども視覚障害者のために点字のものということもありましたが、実際に今日の資料にしましてもそうですけど。

それから具体的な例では東京交響楽団というのがありまして、東京交響楽団のチケットを老人が買いますと、そのコンサートがあるまでに普通の文字のパンフレット、例えば曲目の説明からスタッフの名前まで全部点訳してくれるんです。1人であってもです。といったようなことがあります。そうした1つひとつの事業の行い方に、これから心を尽くすべきじゃないだろうか。そういう意味で抽象的な理念の言葉としては今のままでも一般的でいいんじゃないかと思います。以上です。

**○山崎会長：**はい、ありがとうございました。どうぞ。

**○市川委員：**観光分科会の市川でございます。この件について山崎会長の意見に私は同調しております。理念は基本的な考え方で、今回立てるのは10年計画でよろしいのですか。

**○山崎会長：**総論部分の理念・目標・方針については、普遍的、長期的な視点により計画します。

**○市川委員：**そうですね、ということは10年後に何を持ってくるかが理念であって、それを目指すために基本的な考え方を作って、ここにありますように目標を立てて、方針を具体的に作っていく。その方針が具体的になってくるわけで、理念は理念で、基本的な方針のところで具体策を挙げていくという考えだと思っていますので。いわゆる区民まるごとキャンパスで私は「揺りかごから墓場まで、ずっと入っていけるよ」ということで、この理念はいいと思っています。以上です。

**○山崎会長：**ありがとうございました。例えば佐藤さんから意見が出て、意見が違うように見えるんですけど同じなんです。実は佐藤委員も同じことを言いたいんですね。ただ厳しく評価事項を先に出したものですから、違うように見えるんですけども。では、久松委員。

**○久松委員：**国際交流の久松でございます。質問であり、それから1つ提案なんですけど、基本理念の

今ある文字を読ませていただいて、だれでも、どこでも、いつでも、それからどのように、というか、その成果を地域で活かすというような、そういうやり方を書いてあるわけですね。そうすると「何を」というのがあってもいいかなと。「何でも」というわけにはひょっとしたらいいかもしれないですね。先ほど送っていただいたところから見させていただいて、私自身では浅学なものですから、いろいろコメントをいただければ、もしくはその議論が必要ないということでしたら終わらせていただいても結構なのですけれども、2つくらい軸があるかなと思っております。

1つはこちらの観光ガイドのほうにもありますように、文京区に存在している文化資源、こういうものは掘り起こし、周知し、知っていただき、愛する、というような意味でそれを学ぶというのが1つ。

もう1つは、これはひょっとして言ったことにならないかもしれませんが区民が望むことと。望まないものを提供してはいけない。たった1人でも望めばとか、厳密な話はいろいろあるかもしれませんが、大まかな理想・目標ということで言えば、区民が望むことを学ぶ。つまり自分が学びたいことを学ぶ。

もう1つは文京区にある文化資源を学ぶと。この2つくらいかなということも思ったのですけれども、もし会長がこういう「何を」というところが多少整理してもよいかということであれば、この2つが、もしくは3つ目、もしくは1つなのかということをお教えいただければと思います。

**○山崎会長：**それは、会長に対してですか。それは難しいですね。何がといったら、何のためにという、つまり私自身は「何のために学習するのか」ということを考えたら、やっぱりよき区民になるため、抽象論ですけど。じゃあ、よき区民とは何かといったら、我々が生活する場というようなもの、つまりここで言えば文京区の行政に対して、やっぱり批判的な目で見られる区民でありたい、というふうに私自身は思っているんです。ですから区民による、区民のための、区民の、その仮に作るとすれば、そこで育っていくもの、その学びというようなものは、やっぱりよき区民として、だから税金を払っている、そのことの意味合いもちゃんと理解した上で、批判的に行政も眺め、そして健康で文化的な生活ができればいい、そんなふうに考えているのです。少し抽象的かもしれませんが。そのために学ばないと。だからそのスポーツを学ぶのではなくて、スポーツを通してそういう人間を形成していく、そんなふうに考えています。ですから、1つ、ご意見。

**○奥田委員：**観光分科会の奥田でございますが、前回の観光分科会の座長の野口先生から一定の理念の中で、観光で今まで議論した部分のどこまで盛り込めるか、結構悩んでいるというようなご発言があったと思うのです。それは「まるごとキャンパス」というようなイメージに一種規制されて観光で今まで議論してきたことが全部盛り込まれないのではないかとということをご心配されたと思うのです。で、お尋ねをしたいのは、理念は、まあどうでもいいんじゃないかというご議論もあるようですけれども、この理念をまず初めに議論しているのは、アカデミー推進計画が出来上がった暁に、住民も含めて対外的にこの2年でこのアカデミー計画を説明するためのものなのか。そうじゃなくて、もう1つは内部的にこれから各分科会で議論をするときに、議論の外枠というか議論の限界を枠決めするためのものなのか、どういう形で理念なるものを位置付けようとしているのか。それが無いといろいろ議論が外れたりするんじゃないのかという気がするので、一体どういう意味合いで理念というものを設定しようとしているのかお尋ねしたいと思います。

**○毛利課長：**理念につきましては、先ほどもちょっと説明が入ったのですが、コンプリートするもの

ではないのです。分科会に入るために一定の方向性のものを持って、共通で横断的にある程度イメージを持って部会に望んでもらいたいと。分科会に入りまして、また議論した上で、またフィードバックして、その理念の修正とか変更とか当然考えられると思いますので、そういった意味で、ある程度分科会に入るための共通の横断的なイメージと、そういった考えで望んでいただきたいと思います。

**○山崎会長：**私は、前にも言ったかと思いますがけれども。仮に観光文化で議論をして、で、いろんなふうの違いが出て来るんだろうと思うんです。全部が全部きちんと枠の中に入らないということも有りうると思うんです、確かに。でもその入らなかった部分こそ、実は一番大切じゃないのか。もう1回そのところをみんなで議論する必要があるだろうと。つまり、文化芸術ということと、観光ということのイメージの捉え方がかなり違うんだろうと思うんです。これは同一で、例えば変な話ですけども、野口先生のところも観光文化という学科を大学に作った。私のところでもこの4月からできるんです。そうすると学内で論議していても文学部や普通の経営学部と、どう観光というものが、学問なのか、ならないのかというので喧々々々なんです。だからそういう齟齬みたいなものもあるだろうし。しかし、さっき言ったとおりに実はアカデミーということを経上の学問ではなくて広くとらえたときに、それこそ世界遺産なんかは、まさに観光文化の象徴なんだと思うんです。例えばそこまで広げれば絶対ここに入ってこないなんてことはあり得ないだろうと思うんです。ですから、とにかく違っても何でもいいから議論しましょう、という感じです、私は。

**○奥田委員：**観光分科会の奥田ですが、確かに文化だとか歴史だとか、先生がご指摘のとおり、世界遺産とかは重要な観光の素材でウエイトは非常に重いと思うのですけれども。もうちょっと平たく言うと、観光というのはちょっと気分転換にどこかへ行って、あるいはちょっと非日常体験をして、何かいいものを見て、帰りにおいしいものを食べて、場合によっては遊園地に寄るとか、そういうものをひっくるめた形で出来上がっているものだと思うんです。そうすると、どう広げていっても、多分アカデミーだとかキャンパスという言葉の限界をやや乗り越える部分が出て来るんじゃないかと思っているんです。それがあるので、それでもいいのだよと、それは外向けにキャンパスと言っているのだから、中は何を盛り込んでもいいのだということであれば、それでかまわないのですが、議論を規制するものということになると、観光は、多分このキャッチフレーズにはちょっとはまりづらいのではないかなと考えています。

**○山崎会長：**こういうことかと思うのですね、私は筑摩書房から東京の文化地図について書けと言われてた。文化地図といったときに、何を書くかというとき当然この史跡みたいなものを書くわけですね。そのときに文化というものをどうとらえるか、というので随分悩んだ末、つまり食べ物屋、それを全部入れたわけです。つまりそれはもう貴重な文化なんです。ですから、決して今心配したようなことにはならないはずなんです、絶対に。劇場もそうだし。だから今まで文化という何か机上の狭いもので考えているんじゃないか。私もそうなんですよ、そんなに広い人間じゃない。私もそのときに初めて、そういう命題を与えられたときに、今はもう亡くなっちゃいましたけど、立教大学の前田愛という教授なのですが、文化地図を書けと。そのときにやっぱり前田先生は私に山崎が文化を一体どうとらえているのか、ということを試されたのだと思うんです。だから先生は「そうか」といって受け取った。だけど最後にできれば鷗外の方眼地図の上にもう少しきちんと落としてくれるといいな、というようなことを言われた。そのときは学校や劇場も全部書きました。ですから、そういうものを含めて、例えば文京区で、こ

このコースを通して、こういうまいものが食べられますよ、とPRすることだって大いに。あるいは外へ行って食べてくるというのもある。だから、それこそここにみんな入ってくる。そういうものを逆に提供してほしい。だからそんなに心配いらぬのではないかと思うのです。理念とって凝り固まらないで、せつかく柔らかい言葉になっていますから、いろんなふうに議論されたらいいんじゃないかと思っています。

**○伊藤委員：**伊藤でございます。いつでも、だれでもと、そこへ全部含まれているということなので、言うことはないんじゃないかというふうに思われるかなというのが1つあるんですけど。文京区の教育に関しては、すごく他区からも評価されているために、最近若い、30代ぐらいの若い世帯が増えているという、人口が増えているというようなことも耳にしております。私どものセンターはいろいろやっていますが、比較的元気なのが高齢者、中高齢者の方たちが元気でいろんな学習のものなんかを求めて集まってくさるんですね。その若い世代の方がどういうことを考えているのか、あるいはどういうことを求めているかということを知りたくて、いろんなことを企画いたしますが、やっぱり若い世代の方はなかなか集客が少ないというのが現状なのです。特にここに広く書いてあつてどなたも含まれるんですけど。やっぱり私たちは文京区の特徴、教育とか文化施設を大事にしている、それを誰が求めているのかという世代、若い世代、青年たちが何を求めているのか、あるいは若い、教育を10年間目指して、文京区に越して来られる方もかなり多いように聞いていますので、そういうお母さんやお父さんたちが、何を求めどういうことをやったら近づいてくれるのかとか、もう少し私たち文京区の世代を意識したほうがいいのではないかなど。そんな気が、自分がやっている事業を通して、やっぱり高齢者の方が集まって元気でいるのは、自分も含めてですがいいことだと思いますが、もうちょっと。それから若い世代の人たちも大変文京区は、ある意味では文化的にも高い水準の方が集まっているということも聞いていますので、その人を生かす、そこに住んでいる人を生かす方法、そんなものも考えていったらもっと魅力的なまちになるのではないかなど所感ですけど感じております。

**○山崎会長：**ありがとうございます。もう少し自由にご意見。

**○佐藤委員：**佐藤です。もう一度発言させてください。基本理念のところでは先生もお話されましたし、ここにもいっぱい書いてあるんですけど、文化という言葉が1つも載ってないなというふうに思います。ですので、文化という言葉はどこか足してもらえるとありがたいかなということと、区民がいつでも、どこでも学びたいときに学ぶことができ、その成果を地域で生かすことができる。これは学習と成果発表という部分だと思うんですけども。そろそろ「育成」という言葉をこのへんに少し入れるといいんじゃないかなと思います。その具体的な言葉は見つからないんですけども、学んで、育てて、成果を生かす、というような形の三段論法でやってみたらいいんじゃないかなというふうに感じました。

**○山崎会長：**はい、ありがとうございます。かなり具体的な提言が出ました。

**○本松委員：**本松でございます。理念のところでは、今日の資料のほうでも見させていただいて、海外の経験者の方とか、高齢者の方とか、障害者の方というようなことで、いろんなお話を聞かせていただいて、この中で国際理解とか文化交流ということで、多分区民が勉強してもそれを活かす場というのは、活かす場というと多分人がかかわり合うということで、交流みたいな言葉が欠けているのかなど。誰か

が勉強して活かす場があるというのではなくて、それを交流するようなことも考えないと、どなたかおっしゃったような情報が途絶えたり、私は根津・千駄木地区に住んでいるので、越えちゃうと目白台とかあっちのほうはほとんど分からないので、そういった連携とかいろんなものがあればいいのかな、そういう情報の交流、人的交流もいろいろあるのだろうけれども。そういった交流みたいなこともちよつと入れるようなキーワードがあればいいかなと思いました。

**○山崎会長：**ありがとうございます。今、幾つかのキーワードが出て。はい、どうぞ。

**○國分委員：**国際分科会の國分でございます。今の本松委員のお話をお聞きしながら、国際部会の立場で理念をどうとらえるのかなというふうに、最初からずっと考えながらお聞きしていたんですけども。これは私の経験で申し上げますと、インタープリターの立場で、実は昨年横浜市の、金沢区の金沢文庫の友の会の方と交流をいたしました。そのときに長く文京区に住んでいたんですけども、ほかの自治体の方はどのように文京区をとらえているのかなということが、実はよく分からなくて、お尋ねいたしましたところ、極めて明快な答えが返ってきましたのは、文京区さんは江戸の文化が非常に豊富ですね。特に元禄の綱吉ゆかりの資産が非常に多い。非常に金沢区のほうから見るとうらやましいと。そういわれてみると、金沢文庫というのはご承知のように鎌倉幕府の金沢家のゆかりの文庫なものですから、鎌倉時代で実は途絶えているわけですね。大きな護国寺さんとか、そういうふうな有形文化資産のようなものがあまりないということで、いわゆるその交流という視野で見ますと文京区の歴史的な価値が見えてくる。ということになりますと、提案というものにはならないんですけども、国際分科会の交流という目で見えていきますと、抽象的な言葉よりも、例えば江戸とかそういう観点で絞っていきますと、前回でも私、文京区の文化資産とか歴史的資産というようなお話を申し上げたんですけども。もう少し理念的な形でいうと、やはり東京都内で見た場合の文京区と見た場合に、やっぱり江戸の資産なのかなというような感じがいたしました。これはむしろ提案よりも参考までにちよつと、補足で申し上げたいと思いました。以上です。

**○山崎会長：**はい、どうもありがとうございます。幾つかの文化、育成あるいは交流というようなキーワードも出てまいりましたし、それから今のお話の中にある、例えば文京区は何が売りになるのかという、その文化にしても何にしても、そのことをやっぱり外へ押し出していくという、我々そのためにも、中で、文京区の資産をやっぱりきちんと見ていく目というものが必要になってくるんだろうなと思います。ご意見、自由にもう少し。はい。

**○上田委員：**観光分科会の上田です。先ほどから基本理念などを聞いていたんですけど、区民がいつでも、どこでも、だれでも、という話が出ましたね。その中で何を学ぶかということに入ってきて、僕が今考えていたのは、前に、どのようにそこに入るかということが一番重要な話じゃないかと思っていたわけです。今から2年か3年くらい前ですか、文京区アカデミアですか、何かありましたね。僕はあの当時、町会長をやっていたので「自治会の活動と運営」というので講師をしてくれと言われて、生徒さんとおっしゃってもみんな60、70の人ばかりなんですけど。それについてうちのまちの事業者たちと一緒にちよつと講師をしたのです。そのときに一番問題になったのは、びっくりしたんですけど、町会とか自治会に入る方法はどうしたらいいのか、そんな話を聞いたわけです。逆にこちらのほうは、どうやって入ってくれるのかと聞いていろいろとやっているわけです。チラシを入れたり、お祭りのと



きに招待したりするのですが、なかなか入ってくれないのです。そのときに、「そういうところにどうやって入ったらいいの」という質問をされたので、かなりびっくりしました。この点に関しましてかなり考え方の齟齬があるのかなということ、この生涯学習という中でどういうふうに入っているかという、インフラづくりみたいなものですね。環境の、そんなのを皆さん方に教えていただければ、うちのほうの町会とか商店会とか、そのへんの活動も結構面白く動けるかなというふうに思っています。

**○山崎会長：**はい、ありがとうございます。どうぞ自由に、この際、これから議論をしていく分科会で議論をしていく1つのきっかけになるキーワードでもいいですから、1つご発言いただけるとありがたいです。

**○上田委員：**続いて、今度は観光文化、文京区の観光の中でいろいろ目にするようなものがいっぱいあるという、出来上がったものに対する評価があるのですが、ただ、アカデミーという、いわゆる文化という話になりましたら、それがどういうふうにしてできてきたのか、文京区は本当に新しいまちなのです。まだ400年かそこらしか経ってない最近できたまちですから、かなり把握するのが楽なわけです。例えばうちのほうのまちは伝通院さんといって、無量山 寿経寺というのが本当の名前なんです。伝通院というお寺の裏のほうのまちでして、伝通院の経済管理をしまして、小石川掃除町という名前、掃除をしていたわけです。大正年間に先輩たちが掃除町はみっともないからと八千代町町会という名前に変えちゃったんです。だからそういうようなまちの成り立ちを考えていけば、このまちがどのような形で現在に至ったかと、僕はこれが文化じゃないかなと思っています。

**○山崎会長：**はい、どうぞ。大石委員。

**○大石委員：**私は5年前に文京区に引っ越してきたのですが、その前は品川区と大田区に長く住んでいまして、ご承知のように埋め立て地がどんどん東京湾に向かって品川区も大田区も広がっていく。そういう中で住宅ができ、新しい企業が生まれ、またスポーツ施設とか公園が豊富にできて非常に活気がございました。そういう中で、家族で行ってみようかという場所がたくさんございまして、水族館もありますし、いろんな公園や施設があります。「文京区に引っ越しよ」と言ったときに、仲間の人たちは何と言ったかという、「いいところへ引っ越しますね」「家賃が高いでしょう」「住宅を手に入れるのが大変でしょう」ということを言われました。いいという1つは非常に文化的、教育的な側面が非常に高い。ほかの区と比べてレベルが高いということと、それから子どもの教育にとって恵まれた環境であるということをおっしゃっていると思います。ただもう1つは自然が非常に少ないんです。確かに公園はございますけれども、大田区や品川区と比べると本当に子どもたちの活動する場所が非常に少ない。

今、スポーツの分科会に入れていただいて、あらためて孫たちがどういうところで毎日遊んでいるかと見ると、学校の校庭開放、駕籠町小学校ですけど、そこを利用させていただいたり、近くの公園で遊んでいる。すべてそこに書かれているのは、こういうことをしてはいけない、こういうものは持ち込んではいけない、野球をやってはいけない、サッカーしてはいけない、すべていけない、いけない、ということで、じゃあ何をしたらいいかというような声がいっぱいです。そうすると子どもたちにとって何でもしていいよというような、私どもが幼いころ遊んだ環境は文京区にはございません。親のほうも気を使ってそういうところへ出したがりません。先ほどの話のように、学校をもっと開放して学校の校庭

は普段使っていないときだったら自由に、地域に開放してもらったら大変いいのではないかということがあるわけですが、会長さんがおっしゃったように、私も学校教育に長く勤めていて、事故を起こすとすぐ学校の責任にされて、ほかの子が柵を乗り越えて入ってプールで亡くなったりすると「管理者の責任だ」と言われるから、なるべく入れないようにしているわけ。まして開放してどんな人が入ってくるか分からない。しかも最近は非常に物騒な時代ですから、文京区と言ってもどんな人がいるか分からない、そういうところで垣根を全部取り外して「どうぞ」といったときにどういうことになるのか。確かに学校開放をやっているところではかなり地域を使って指導員を置くなり、学校開放委員を置いてきちっとチェックしているはずですが、だから誰が行っても使わせてくれるという状況ではないと思います。

それから体育館等を学校で借りている場合はサークルとかクラブとか何々教室という形で孫たちも行っていますけれども、そういう形の場合はちゃんと指導者がいて、確か学校や教育委員会との取り決めの中でやっていると思います。ですから、いつでも自由に借りられるというところは文京区の中では非常に少ないと思います。それでは文京区はほかの区と比べて恵まれていないんじゃないかと思いますが、実はそういう施設はたくさん大学で持っていますし、私も大学へ勤めていたから。たくさん持っているにもかかわらず、大学とのつながりというのは非常に薄いと思います。

今、シルバーパスを使って毎日利用させてもらっていますが、シルバーパス1つで都営の交通機関とかどこでも行けますから。2万数千円を払えば1年間毎日どこかへ行ってもいい。そうすると年寄りの場合は、それがもったいないからどこかへ行こうかということになって地蔵通りに来るとは思いますけれども、何かそういう文京区でも共通パスみたいなものを区として出して、こういうのを利用するとこういう施設は安くなるか無料になるか、例えば六義園に行くと1年間のパスだと600円で行く。1回行くと年寄りの場合150円とかなりますけれども、そういうものは東洋大の場合だと講座を受ければその人は図書館の利用が、貸出は無理だと思いますけど、図書館の利用はさせますとか、いろいろある、そういう特典みたいなものを、文京区に住んでいるからこそ、こういう特典・メリットがありますよというのが1つのパスを持っていることによってやれば、それが利益者負担でやったとしても大いにやれると思います。

というのは文京区に引っ越してきて5年間経っていますけれども、外側からこういう講座があるから入りなさい、と言われたことは1回もありません。家内が引っ張って行って「お父さん、これ絶対いいから行こう」と行って行くと、女の方はみんな集まってきて、すぐ友達になって、その次の日からはいろんな講座へ行きます。ところが男のほうは引っ張っていかなかったら行きませんし、それが終わるともう行かないです。というのは、やっぱり男性で退職後、団塊世代がどんどん退職してくる中で、その人たちが奥さんに尻をひっぱたかれても出かけて行く魅力のある会があれば、私も大田区で男の料理教室へ行ったり、俳句の教室に行ったりいろいろしましたけれども、最初はしぶしぶ行くんだけど、1回行ってみると面白くてずっと今でも続けているわけです。そのうちNPOも立ち上げて、今教育支援係をやっていますけれども。だから何かそういうきっかけがあれば男性のほうが強いです、女性よりは、最後は。ただ今は女性のほうがはるかにパワーがあって結集していますから。私はやっぱり文京区というのは外から働きに来ている人もいっぱいいると思うのです。で、夜は帰ってしまう。こういう人も準文京区民と言えるから、こういう人も取り込んでいくような幅広い活動をされたらいいと思います。以上です。

**○山崎会長：**どうもありがとうございました。かなり突っ込んだお話も伺いました。ほかの委員の方は

どうですか。

**○武智委員：**スポーツ振興分科会の武智と申します。先ほど委員がおっしゃったことに賛同するところが多々ございます。この基本理念（案）のところで、「区民が」という始まりのところが個人的に引っ掛かるところがあって、やはり文京区には多くの大学があり、会社があり、文京区に通い、また通勤・通学で来ている方が大勢いらっしゃる。そういった方たちも、やはり文京区のことを多く学び取っていただいて、将来的に10年後、20年後に文京区はいいと、文京区に住みたいと思ってくれるような計画になればいいかなと思います。以上です。

**○山崎会長：**はい、ありがとうございました。

**○笠井委員：**笠井と申します。遅刻してしまったので、議論とずれていたら申し訳ないんですが、結構若い世代とかお母さん世代とか、もっと若い世代を取り込んでいきたいという意見がたまに聞かれるんですけども、そのためには多分前回のミーティングでもやったんですけども、キャッチーな言葉があったら、私たちとしてもつかみやすいと思うんです。何かキャッチーな言葉があるかなと考えていたのですが、前回のミーティングで例えば「世界で一番〇〇」というものがあるといいのではないかといいふうに言っていて、それがあって結構売り出しやすいですし方向性も見えるので、その点については言えるものがあればいいんじゃないかなと思っているのと、あとは、例えばせっかくだくさんの施設があるので、大人の社会見学といった形で、社会人になったら自分のエリア以外は何かについて知る機会が少なくなると思うので、例えば後楽園にはホテルとかもありますし、そこで例えば接客のこととかを一日体験学習させてもらおうとか、そういった企画があると魅力的かなとも思いますし、それと最近だと若い世代で転職をする人が多いと思いますが、そういうときに参考にもなるのでいいのではないかなと思っています。以上です。

**○山崎会長：**ありがとうございました。やっぱり1つのキャッチフレーズみたいなものが、どうしてもキーワードとして必要になってくる。まだご発言のない方は1つ発言してください。

**○白井委員：**観光分科会の白井でございます。基本的で本当に申し訳ないのですが、私はまだこういうものに参加しないときから文京区が「文の京」という名前になったときに、「文の京」という意味合いがちょっとよく分からなくて、何を訴えたくて、何を表現したくて「文の京」なのかというところで、割合と私どもの周りに住んでいらっしゃるおばさん方も「文の京って何？」みたいな意見を言う方が非常に多いのです。それで、この「文の京」は何を目指しているのか、どういう意味合いなのか、申し訳ないのですが具体的に説明していただきたいと思います。

**○小野澤課長：**企画課長の小野澤と申します。今のご質問でございますけれども、ちょっと補足しますと、前回からお示したとおり、今、文京区の10年後の姿を描く基本構想の会議体も開かれていて、今ちょうど大詰めで、まもなく全世帯にその素案が配布される状況です。今回、その中でもこの「文の京」については対応をさせていただいているところですが、今、短いですから読んだほうがすんなりとお入りいただける「文の京」というのはこういうふうの規定しております。「これまで文京区は、文教の区と言われ、文化の香りの高いまちを目指して発展してきた。これに寄せる区民の誇りと愛着を

大切にしたい。その上で区民と区が時代の大きな変化に適応しつつ、可能性に富んだこの地を新たな宣伝と成熟の段階へとさらに発展させていく都市自治の姿を文の京と呼ぶ」という定義をしています。これは非常に分かりづらいかもかもしれませんが、今まで皆さんからご議論いただいてきた文化的資産ですとか歴史とか、そういったものを1つの言葉として凝縮して表していきたいという、この文京区ならではの自治体の姿を「文の京」という言葉に込めているんだということを、これは区民の皆さんがお作りいただいたということで、凝縮された言葉として今後も使っていこうという形で、今プランのほうをまとめさせていただいているものでございます。

**○黒木委員：**生涯学習分科会の黒木でございます。僕は「文の京」という言葉は定着しつつあると思います。あまり違和感はないと思います。私の周りでは、むしろアカデミーという言葉の方が混乱しております。アカデミー構想、これは結構だと思うんですね、理想をうたう上で、あるいはそういうことを考える人たちの世界ではいいと思うんですが。文京アカデミーという財団ができたり、アカデミー文京という部署ができたり、アカデミー何とかかんとかがあって、アカデミー講座があって、「アカデミーって何よ」と混乱しております。むしろそのあたりの、アカデミーという言葉を使えば、何かやっているかなという思う世界を作ってはいけないんじゃないかと思います。ただ、「文の京」というのは頭に付けて何かやりましょうという、意外といいのではないかなと思っております。

いいですか、もう1つ。今私たちは理念の話をしているんじゃないかなと思うんですが、「いつでも、どこでも学べる文京区を目指す」という、この言葉が一番いいと思います。私が使うとしたらこれだなと思います。その次の目標の段階で各分科会がこういうことを目指します、ということ掲げて5つの目標が立って、そしてその目標がずれないように方針というところで横串を入れて、ある線路の幅を決めていくということで全体が成り立つというのが通常の作り方じゃないかと思うのですが、以上です。

**○山崎会長：**どうもありがとうございました。しかし、小野澤企画課長の読み上げた文章をお聞きしていて、やっぱりお役所の文章かなという思いがしなくもないんだけど、あまり良過ぎてよく分からん、何ていう。

**○小野澤課長：**ちょっと一緒に言ってしまうとよかったです。例えば構想のほうで理念のお話が出ていますので、どんな理念が決まってきたかという、実は3つキーワードを作っております。「みんなが主役のまちづくり」というのが1つです。それから「文の京らしさの溢れるまちづくり」ということです。3つ目が「だれもが生き生きと暮らせるまちづくり」という、この3つがキーワード的なものとして今選ばれていまして、これを包括した形での、もう1個大きな区としてのイメージのキャッチフレーズというのが、今、区民の方にこれからお諮りして作っていきたいという段階でございます。

**○久松委員：**今、見ていて思ったのですが、今お話していた文京区を実現するということと、上の文京区内全域というのは、何か特定の意味があるのか、文京区もとにかくまるごとキャンパスにしようというキャッチフレーズだったのかなということで、今、「文の京」の説明を聞きながら文京区内全域というのは何でなんだろうなと思ったので、もし、あれだったら。

**○徳田部長：**アカデミー推進部長の徳田です。アカデミーと言いつらいんですけど。私も一応委員とい

うことなので、ちょっと事務局とは違った発言をさせてもらおうと、実は「文京区内まるごとキャンパス」という言葉は、そもそも生涯学習って何かという、最初にさかのぼるんですけれども「いつでも、どこでも、だれでも」というのがありました。何を学ぶのかというご質問がありましたが、まさに、それは1人ひとり違うでしょうと。要するに今まで誰かに言われて学ぶのではなくて自分の意志で主体的に自分が学びたいものを学ぶ、という考え方が平成に入ってから徐々に生まれてきました。それで文京区としては、この「まるごとキャンパス」というのは、実はそれほど古い歴史を持っているわけではないです。ただ、少なくとも学ぶ場所は文京区内、どこでもあるでしょうと。あるいは言い方を変えると、先ほど上田さんは講師の立場で話されたと思ったんですけど。今度は逆に自分が学んだことを人に伝えるという立場に立つてできるんです。まさにそれが。文京区のキャンパスはご案内のように15大学抱えて、この4月からは3大学増えますので18の大学を抱えている区になります。こんな都市はどこにもありません。そういった意味からキャンパスというのは素直に我々の頭に浮かんできたということなんです。

それから「文の京」については文京区とただ言うだけじゃなくて、それなりに考えたときの理念があったのですが、今となってはだいぶ定着してきているかなと思います。そこに込められた思いというのは、この文京区を我々としては、ぜひ全国に向かって発信していきたい。アカデミー推進部は去年の4月にできたばかりの組織ですが、今年、来年として我々部としての最終的な目標についてはやっぱり発信だろうと、文京区を内外に発信していくんだというのが我々の仕事だと思っています。

それで先ほど奥田委員から鋭い指摘なんですけれども「まるごとキャンパス」というのが果たして観光サイドから見たときに、議論からはみ出るのではないかなということですが、当然有りうると思います。ただし、今たまたま5つの分科会に分かれています。実はかなり関連しているのは事実です。例えば観光は独立した観光じゃないし、文化芸術もそうですし、スポーツも、あるいは生涯学習、国際交流も、みんな関連しています。ただ少なくとも先ほど言われたように基本的に5つの柱を立てたほうが議論もしやすい。また、どこかでそれに横串を立てれば、より深まっていくものじゃないかなと思いましたが、たまたま5つに分けただけです。そういう意味では全体として文京区を我々としては、最終目標は発信ですけれども、分かりやすく言えば最終的には文京区を住みよいまちにしたいというのが我々行政の務めですので、そのように思っています。その1つのやり方として我々アカデミーという、いってみれば余暇というか、副会長の先生は確かそれを文化というんだとか言ったんですけども、要するに、本業以外の余暇の部分といいますか、それを全部集めたのがこのセクションですので、そういったところで、もう1回このアカデミー構想そのものを、場合によってはご意見によっては変更もありえます。

なぜかと言ったらこれを作ったのはかなり前の話ですので。そのときは今みたいに観光とか新しい視点がなかったんです。スポーツと生涯学習だけだったもので。あとは文化を入れてもかなり、変な言い方ですがレベルが高いというか、全国的に有名な先生が集まっていらっしゃいますし。そういう意味で、そういうものを全部関連付けていけば。アカデミーの言葉がおかしいとなればそれについてはそういうご提言について検討したいと思います。一応私の意見を言わせてもらいました。

**○山崎会長：**ありがとうございます。大変よい意見だと思います。要するに、ここの委員の皆さん方の発言が大きく1つの理念なり構想なりを築き上げていくことなんだということですね。ですからその過程の中で恐らく「文の京」という言葉の意味合いも、それからアカデミーも理解されてくるだろうと。ですから今のところ、まるごとキャンパスというところでいったん議論を収束して、今度は分科会に分かれて、もう少し分科会の議論と全体会の議論をフィードバックしつつ進めていかなければならないだ

ろうと思いますので、今日のところはこんなふうに議論を収束させてください。事務当局のほうで、出た意見をまたまとめて整理をして、皆さん方にお示しいたします。この後少し事務連絡をいたしましていったん会を閉じさせていただいて、そして分科会に分かれたいと思います。

## 2 その他

○毛利課長：その他としまして、事務局のほうから次回の日程の確認ですが、スケジュール表でもお渡ししているのですが、次回の日程は3月23日（火）午後6時半から、会場は本日と同じ「シビックセンター第一委員会室」です。以上が連絡事項です。

○山崎会長：どうもありがとうございました。それでは各分科会に分かれて、お互いに紹介し合っていたきたいと思いますが、今日、実は分科会の座長の先生方がご欠席になっておりますので、水越先生の文化芸術のほうには毛利課長が加わります。それから観光・文化のほうは小野課長にお願いいたします。それからスポーツのほうは太田課長にお願いいたします。生涯学習は私が入りますので、どうも今日は長時間ありがとうございました。ではいったんこれで会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

## 閉会

以上